

県指定 天然記念物

狩生新鍾乳洞



狩生新鍾乳洞は昭和34年に発見された鍾乳洞である。狩生駅より2km北西、王子神社の西方にあたり、鶴見岳の中腹にある数十mの断崖の中ほどにあるため、自由に見ることはできない。いくつかの支洞も見つかっており、長さ120m、落差50mほどあり、洞内の移動はロープを必要とする所が多い。特に第1洞は高さ25m、幅10m、長さ35mの大洞窟で、石柱や石筍が多く発達している。また、第5洞は高さ10m、長さ30mで、石筍、つらら石、ヘリクタイトなどの数・規模ともに風連、小半の鍾乳洞に匹敵する華麗さである。洞内は、コウモリが多く、糞に集まるヤスデ・トビムシ類も多く見られる。地下水も豊富で現在成長中の鍾乳石も観察される。